

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	ベと病	灰色かび病	白斑病	株腐病	苗立枯病	立枯病	萎凋病	根腐病
コサイド3000DF	M1		-	-	◎		◎					
アグロケア水	BM2		1	-		◎	◎					
タチガレン液	32		*c	1						◎		
タチガレン粉	32		*e	1						◎		◎
ベンレート水	1		21	2							◎	
バシタック水75	7		*b	1					®			
モンカット水50	7		*a	1					®			
			*d	1					®			
スクレアFL	11		*f	2							◎	
ライメイFL	21		7	2	◎							
ランマンFL	21		3	3	◎							
リゾレックス水	14		*c	1					®			
リゾレックス粉	14		*d	1				◎				
フェスティバル水	40		1	3	◎							
レーバスFL	40		3	2	◎							
ジャストフィットFL	43・40		7	3	◎							
アリエッティ水	P7		1	2	◎		◎					
ピシロックFL	U17		1	2	◎					◎		
ヨネボン水	M1		14	4	◎							
ユニフォーム粒	11・4		*d	1	◎		◎					

*a:播種直後 *b:播種時～子葉展開時 *c:播種時 *d:播種前

*e:播種3日前～直前 *f:播種7日後まで

®:リゾクトニア菌による病害

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	ミナミキイロアザミウマ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類	タネバエ類	ヒメクロユスリカ	シロオビノメイガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	ネキリムシ類	ケナガコナダニ	ハクサイダニ	ハダニ類	ネコブセンチュウ
スピノエース顆水	5		1	2	◎	○					◎								
ククメリス	-		*a	-												◎			
カルホス微粒F	1B	劇	*c	1					◎										
スミチオン乳	1B		21	2			◎									ホ			
ダイアジノン乳40	1B	劇	21	2			◎												
ダイアジノン粒5	1B		*c	1					◎										
			*f							◎									
ネマキック粒	1B		*f	1															◎
マラソン乳	1B		14	4			◎												
アグロスリン乳	3A	劇	7	5		◎	◎					◎							
アディオン乳	3A		14	2			◎										◎		
ガードバイトA粒	3A		*d	2															
フォース粒	3A	劇	*f	1											◎	ホ			
アクタラ顆溶	4A		3	2			◎												
アクタラ粒5	4A		*c	1			◎												
アドマイヤーFL	4A	劇	1	2	◎	○	◎												
アドマイヤー1粒	4A		*c	1			◎												
アルバリン顆溶	4A		3	2			◎												
アルバリン粒	4A		*c	1			◎												
スタークル粒																			
モスピラン顆溶	4A	劇	14	2			◎												
トランスフォームFL	4C		3	2			◎												
ディアナSC	5		1	2				◎		◎		◎				ホ	◎		
ラディアントSC	5		1	2	◎			◎		◎		◎				ホ	◎		
アニキ乳	6		1	3									◎						
アフーム乳	6		3	2									◎			ホ			
ネコナカットFL	10B		3	2												ホ	ケ		
コテツFL	13	劇	*g	1												ホ			
コテツバイト粒	13		*h	1												ホ			
パダンSG溶	14	劇	7	2		◎		ア			◎								
パダン粒4	14	劇	*b	2		◎													
リーフガード顆水	14	劇	7	2	◎	○	◎	ア								ホ			
カスケード乳	15		3	3					ハ		◎		◎			ホ			
ノーモルト乳	15		7	2								◎							
マトリックFL	18		7	3									◎						
ロムダンFL	18		21	2									◎						
ダニトロンFL	21A		21	1														◎	
アクセルFL	22B		1	3							◎		◎						
モベントFL	23		14	3			◎									ホ			
ブレバソンFL5	28		1	3							◎		◎						
ベリマークSC	28		7	1			灌				灌		灌						
ヨーバルFL	28		7	3									◎						
ウララDF	29		1	2			◎												
ファインセーブFL	34	劇	14	2	◎	○													
ブレオFL	UN		1	2				◎					◎	◎					

*a:発生初期(施設) *b:播種時及び発芽揃時 *c:播種時 *d:生育初期 *f:播種前
 *g:2葉期まで(但し収穫14日前まで) *h:播種時～2葉期まで(但し収穫14日前まで)
 ア:アシグロハモグリバエ ハ:アシグロハモグリバエ及びマメハモグリバエ
 ホ:ホウレンソウケナガコナダニ ケ:ケナガコナダニ類
 灌:株元灌注

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき												
	立枯性病害 べと病												
	夏まき												
	立枯性病害 べと病												
	秋まき												
	立枯性病害 べと病												
虫 害	シロオビノメイガ												
	アブラムシ												
	ヨトウムシ												

作 型 —；栽培期 —；収穫期
病害虫発生消長 —；発生期 —；発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	播種前	1. 抵抗性品種を利用する。 2. 排水不良畑での栽培は避ける。 3. 次の薬剤を施用する。 ユニフォーム粒剤 9 kg/10a	春と秋の2回、特に秋期曇雨天が続くと10月中旬から下旬にかけて多発しやすい。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
	生育期	1. 肥培管理に注意し、軟弱にならないようにする。 2. 過密栽培を避け、排水を良好にする。 3. 雨よけ栽培を行う。 4. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 1500倍 ランマンフロアブル● 2000倍	
株腐病	播種前	・多発畑では連作をさけるか、土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	本病はリゾクトニア菌による。
	播種前および播種時	1. 夏まき、早まきの場合、播種期をできるだけ遅くする。 2. 次の薬剤を播種前に土壌混和する。 リゾレックス粉剤 20～40kg/10a	

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	・ 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	本病はリゾクトニア菌、ピシウム菌による。 # リゾクトニア菌のみに有効である。
	播種時	1. 過密な播種を避け、うね内の過湿に注意する。 2. 多発畑では、次の薬剤を播種時に30ℓ/㎡土壌灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍	
立枯病	播種前	1. 多発畑では連作をさけるか、土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種前に土壌混和する。 タチガレン粉剤 40kg/10a	
根腐病	播種前	1. 多発畑では連作をさけるか、土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種前に土壌混和する。 タチガレン粉剤 40kg/10a	低温で雨の多い年に発生する。本病はアファノミセス菌による。
モザイク病・えそ萎縮病	生育期	1. 寒冷紗による被覆栽培を行う。 2. アブラムシの防除をする(アブラムシの項参照)。	病原ウイルスはアブラムシ類により伝搬される。 症状が冬季～早春に発生するケナガコナダニの加害と類似するので注意する。
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。特に10～11月はウイルス病予防に散布する。 アディオン乳剤 3000倍 アドマイヤーフロアブル 4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍	アブラムシは汁液を吸汁して加害するだけでなく、ウイルス病を媒介するので、秋の多発期には防除を徹底する。
ミナミキイロアザミウマ	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 1000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 バダンSG水溶剤 1500倍	# アザミウマ類での登録
タネバエ	播種時	・ 次の薬剤を作条土壌混和又は土壌表面散布する。 ダイアジノン粒剤 5 6kg/10a	

ホウレンソウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
シロオビノメイガ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 カスケード乳剤 4000倍 プレバソフフロアブル5 2000倍	秋期の被害が大きい。
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので、見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。
ハスモンヨトウ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので、見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 エコマスターBT* 1000倍 カスケード乳剤 4000倍	盛夏期以降発生が多くなる。 *野菜類での登録
ネキリムシ類	生育初期	・次の薬剤を株元に施用する。 ガードベイトA(粒) 3kg/10a	
ホウレンソウケナガコナダニ	播種時～2葉期	・次の薬剤を土壌全面に散布する。 コテツベイト(粒) 3～6kg/10a	未熟の有機物を使用しない。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 カスケード乳剤 4000倍	
ハダニ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 ダニトロンフロアブル 2000倍	
ネコブセンチュウ	播種前	1. 作付予定地は土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種前に全面散布して土壌混和する。 ネマキック粒剤 20kg/10a	幼苗期に寄生が多いと、生育が著しくおとろえ、枯れる場合もある。
その他の病害虫		アカザモグリハナバエ、ヤサイゾウムシ	